

[論文]

バレーボールにおける 日・中トップリーグ形態の比較研究

増 山 光 洋

- 〈目 次〉
1. はじめに
 2. 調査方法
 3. 調査結果
 4. 考察
 5. まとめ

Keyword：キーワード
バレーボール，アジア，トップリーグ

1. はじめに

2016年8月，リオデジャネイロオリンピックにおいて中国女子バレーボールチームをかつての中国代表エースであった郎平監督が率いて2004年アテネ大会以来3大会ぶりに金メダルを獲得し，再び世界の頂点に立った．バレーボールにおいて体格的に不利といわれるアジア勢の中，中国女子チームは世界と対等どころか常に世界トップの位置に君臨している．日本女子チームも一大会前のロンドンでは銅メダルを獲得，リオ大会においても最終予選でオリンピック本戦出場権を獲得し，本大会ではベスト8と健闘をみせている．一方，男子は中国，日本共に最終予選で敗退し，本大会の出場権を逃した．さらにこの最終予選で日本は中国に3-0のストレートで敗戦と完全に力の差をみせつけられたことは多くの関係者の危機感を煽った．隣国でありながら競技力の差，他国の強化や著しい成長が見える中，様々な検証と新たな強化策を見出していかなければ今後日本はますます世界はもとよりアジア地域での国際競技力の低下を懸念せざるを得ない．かつてオセアニア地区にあったオーストラリア，さらにはイランなどの国々がアジア地域の枠組みとなり様々な競技においてアジア地区における競技レベルが向上しているといえる．これによりアジア地区での競争性も増し，各競技においてアジアの代表枠をかけた熾烈な争いが繰り広げられている．実際バレーボールにおいては長きにわたり男女ともアジアでは日本，中国，韓国が台頭し，アジアでの頂点およびさらなるステージとしてのオリンピック出場，メダル獲得を競い合ってきた．しかし，近年ではここに男子ではイラン，オーストラリア，女子においてはタイ，チャイニーズタイペイなどが力をつけて上記三ヶ国を脅かしている（表1）．

表1 アジア競技大会（過去5大会）における男女バレーボール競技最終結果

男子（過去5大会）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
2014/仁川 (韓国)	イラン	日本	韓国	中国	インド	カタール
2010/広州 (中国)	日本	イラン	韓国	タイ	中国	インド
2006/ドーハ (カタール)	韓国	中国	サウジアラビア	カタール	日本	イラン
2002/釜山 (韓国)	韓国	イラン	日本	中国	インド	チャイニーズ タイペイ
1998/バンコ ク(タイ)	中国	韓国	チャイニーズ タイペイ			

女子（過去5大会）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
2014/仁川 (韓国)	韓国	中国	タイ	日本	チャイニーズ タイペイ	カザフスタン
2010/広州 (中国)	中国	韓国	カザフスタン	北朝鮮	タイ	日本
2006/ドーハ (カタール)	中国	日本	チャイニーズ タイペイ	タイ	韓国	カザフスタン
2002/釜山 (韓国)	中国	韓国	日本	チャイニーズ タイペイ	タイ	カザフスタン
1998/バンコ ク(タイ)	中国	韓国	日本			

そこで、本研究では男女ともに力をつけている隣国中国におけるトップリーグと日本のそれを比較検証することで国内リーグの在り方とそれが国際競技力つまり各国の代表チームに加わる選手育成へ与える影響について検証することを目的とした。

2. 調査方法

中国と日本両国におけるバレーボールトップリーグの組織編成及びリーグ運営方式を明確にするため資料収集及び現地視察を行った。資料収集には北京体育大学排球教研室教官である趙凱氏協力の下、国内リーグ情報を収集

し、現地視察は中国遼寧省運動技術学院訪問（遼寧省男女バレーボールチーム）及び広州恒大女子バレーボールチームへの訪問を実施し、広州恒大へチーム帯同の下、2週に渡り中国国内リーグの視察を行った。

3. 調査結果

3-1 日本のトップリーグ形態と選手育成

日本の最高峰といえるバレーボールリーグは、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構（以下「Vリーグ」）が運営するアマチュアを主としたバレーボールリーグであり、2014/15シーズンは男女各8チームでトップリーグが「V. プレミアリーグ」として編成され、その下部に「V. チャレンジリーグⅠ、Ⅱ」を設け2リーグ制としている。

（1）リーグ名称「Vリーグ／V. LEAGUE」

（2）リーグ目的

Vリーグ機構は、2005年の設立（公益財団法人日本バレーボール協会（以下、「JVA」）から独立）以来、「世界に挑戦」「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」の『5つのビジョン』を掲げ（図1）、Vリーグ機構規約第1章総則第1条からJVAの傘下団体として、世界のトップリーグを目指し、代表チームへの主力選手の派遣や日本のバレーボールの水準の向上およびバレーボールの普及を図ることにより、豊かなスポーツ文化の振興ならびに国民の心身の健全な発達に貢献することを目的としている。さらにはバレーボールを通じ、新たなスポーツ文化価値を広く社会にアピールし、地域社会の活性化や次世代を担う青少年の育成など、わが国競技スポーツのトップリーグのスポーツ文化の創造の先駆的役割を果たすこともVリーグ機構の目的としている。国際競技力を蓄えるべくオリンピックへ向けた強化の

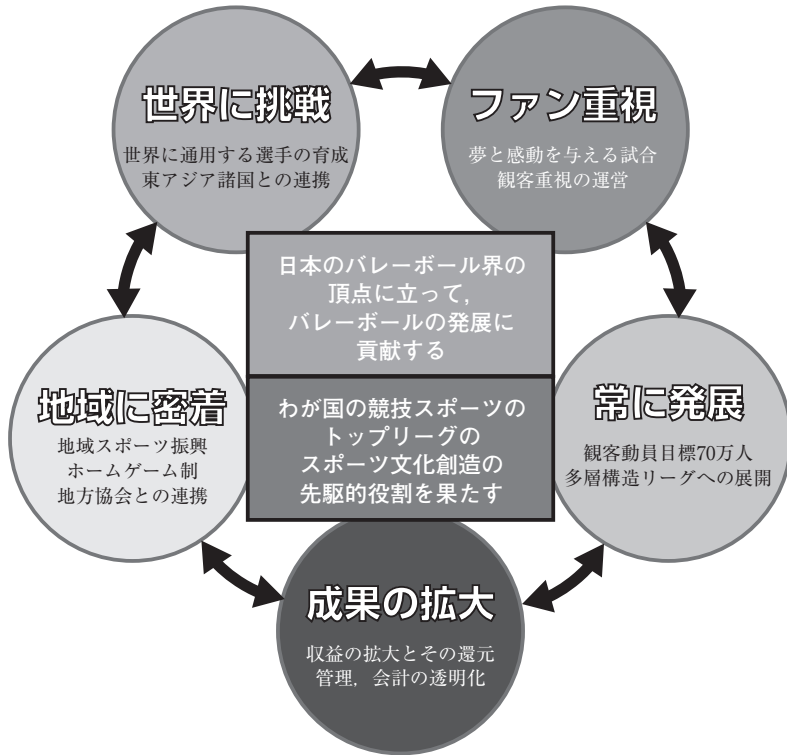


図1 Vリーグ機構『5つのビジョン』

Vリーグ機構ホームページより引用

場としてリーグを位置づけており国内リーグのレベル向上を目指し、あわせてバレーボール人口の拡大、より多くのファン獲得を目標としている。

(3) 総所属チーム数

「V・プレミアリーグ」	男子	8 チーム
	女子	8 チーム
「V・チャレンジリーグⅠ」	男子	8 チーム
	女子	8 チーム

※準加盟チーム

準加盟規定

第1条（目的）

Vリーグ機構への加入を目指すチームに門出を広げ、Vリーグ機構主催大会への参加を通じて競技力・運営力の向上を促すとともに、情報の共有と入社に必要な指導や助言を行うことにより、将来の加入を円滑に進めること、それによってトップリーグへの夢を持つチームを増やし、底辺の拡大と普及発展を目指すことを目的とする。

第2条（準加盟の要件）

準加盟するチームは、次の要件を満たさなければならない。

- ① 準加盟後可及的速やかに、Vリーグ機構の社員の資格を具備し社員として入社する意思を持つチームであること。
- ② Vリーグ機構定款第9条に定める社員の資格を具備していること。もしくは3年以内に具備することができる可能性が高いこと。
- ③ Vリーグ機構規約第9条に定めるチームの資格要件を具備していること。もしくは3年以内に具備することができる可能性が高いこと。
- ④ Vリーグ機構規約第10条に定める条件を満たす。チーム名称、チーム

呼称、ロゴマークを有していること。

- ⑤ Vリーグ機構規約第13条に定めるホームタウンを有していること。
- ⑥ その他Vリーグ機構の定める定款・規約・各種規定類の適用を受けることを了承していること。

(4) リーグ所属チーム資格(チーム構成)

Vリーグ機構規約第9条(チームの資格要件)

- ① Vリーグ機構のチームは、以下の要件を具備するものでなければならない。
 - 1) わが国で唯一のトップリーグの構成員になることの責任と義務を自覚していること。
 - 2) 前号の要件を満たすことを、当該チームが所属する都道府県バレーボール協会が承認、支援していること。
 - 3) 株式会社、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、特定非営利活動法人(NPO法人)などの法人格を持つ団体またはそれに準ずる団体であること。それに準ずる団体とは、少なくとも下記の要件を満たしていることを条件とする。
 - i) 団体の運営等に関する規定を有すること
 - ii) すべての選手に適用される規約を有すること
 - iii) 規定に基づき代表者が選任されていること
 - 4) JVAに登録しているチームを保有し、Vリーグ機構が主催する大会ならびにチームが加盟する連盟が主催する全国規模の大会に引き続き複数年の出場の実績があること。
 - 5) Vリーグ登録規程に正規に登録されたチームで、正規に登録された構成員(選手)を12名以上保有していること。
 - 6) Vリーグ機構の主催する大会に参加して競技するに足る競技力を安定的に備えていること。競技力が備わっているかどうかの判定は、次の基準を総合的に判断した結果によるものとし、理事会にて審議決定する。

- i) 加盟する全国連盟が主催する全国規模の大会で安定的に優勝またはそれに準ずる成績を残していること
 - ii) 天皇杯・皇后杯全日本選手権のブロック予選やブロック内のリーグ戦や選手権でのVリーグ加入チームとの対戦結果において、相応の競技力を持つと判断されること
 - iii) チャレンジリーグⅡにおいて、Vリーグ機構の所属チームに勝利するなど上位の成績を残していること
- 7) 本規約第74条、第75条に定める要件を満たす監督を有すること。
- 8) Vリーグ参加に必要な経費負担ができる安定した財政基盤を有していること。具体的には、最低限として下記の要件は満足されなければならない。
- i) 運営上の支障となる負債を有していないこと
 - ii) 年会費、参加料などのVリーグ機構から請求される諸経費の負担が出来ること
 - iii) Vリーグ機構が主催する大会に参加する場合に必要なチーム負担経費の全てを負担できること
 - iv) Vリーグ規約第42条の損失弁済の能力を有すること
- 9) チームの運営に必要な運営体制を組織していること。具体的には、最低限として下記の要件は満足されなければならない。
- i) フロントと現場、スタッフ（監督、コーチなど）と選手の関係を示す組織図があること
 - ii) 監督とは別に、専任スタッフが1名以上居ること
 - iii) Vリーグ機構主催の試合に必ず同行できる決まったスタッフが居ること
- 10) Vリーグ機構の主催する公式試合に出場すること
- 11) ホームゲームを、都道府県協会とともに、主管できること
- ② 参加チームが1項の要件を満たしているかどうかの審議は、Vリーグ機構の理事会が行なう。

(5) リーグ所属チーム (表2)

表2 2015/16バレーボールV・プレミア, チャレンジリーグ加盟チーム

V・プレミアリーグ	
男子：8チーム	女子：8チーム
JTサンダーズ サントリーサンパーズ 豊田合成トレフェルサ 堺ブレイザーズ ジェイテクトSTINGS パナソニックパンサーズ 東レアローズ FC東京	NECレッドロケッツ 久光製薬スプリングス 上尾メディックス 岡山シーガルズ 日立リヴァーレ 東レアローズ デンソーエアリービーズ トヨタ車体クインシース
V・チャレンジリーグI	
男子：8チーム	女子：8チーム
大分三好ヴァイセアドラー 富士通カワサキレッドスピリッツ 警視庁フォートファイターズ 大同特殊鋼レッドスター つくばユニテッド Sun GAIA トヨタ自動車サンホークス 東京ヴェルディ 埼玉アザレア	JTマーヴェラス PFUブルーキャッツ 大野石油広島オイラーズ KUROBEアクアフェアリーズ JAぎふリオレーナ 仙台ベルフィーユ フォレストリヴス熊本 柏エンゼルクロス
V・チャレンジリーグII	
男子：7チーム	女子：5チーム
きんでんトリニティーブリッツ 兵庫デルフィーノ 近畿クラブスフィーダ 東京トヨペットグリーンスパークル 千葉ゼルバ VC長野トライデンツ 奈良NBKドリーマーズ	GSSサンビームズ トヨタ自動車ヴァルキューレ プレステージ・インターナショナルアランマーレ 群馬銀行グリーンウイングス プレス浜松

Vリーグ機構ハンドブック2015/16より引用

(6) リーグ編成 (図2)

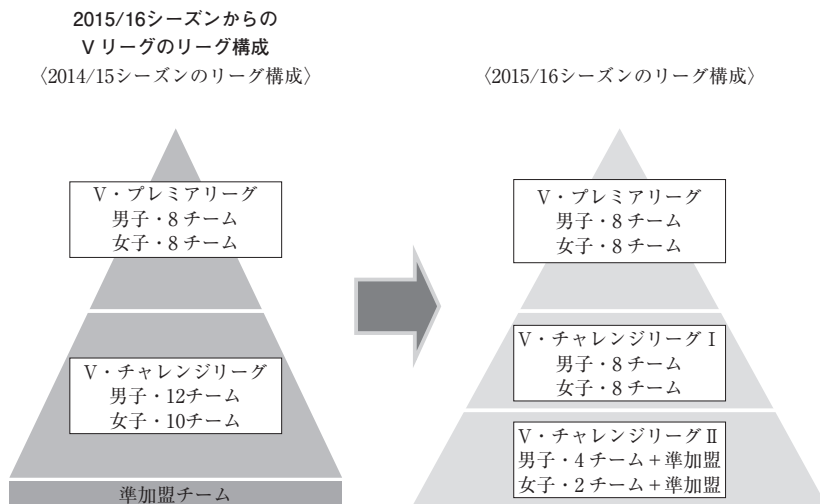


図2 Vリーグ機構2015/16シーズン新リーグ構成

Vリーグ機構ホームページより引用

(7) リーグ運営及び大会方式

① V・プレミアリーグ大会方式及び順位決定方式 (図3)

- 1) 男女とも8チームによる3回戦総当たり方式によるV・レギュラーラウンドを実施。
- 2) V・レギュラーラウンド上位6チームがV・ファイナルステージのファイナル6に進出する。残りの下位2チーム最終順位は確定し、V・チャレンジマッチ(入替戦)に出場する。
- 3) ファイナル6は6チームによる1回戦総当たり方式で行い、その最上位のチームがファイナル(優勝決定戦)に進出し、2位チームと3位チームがファイナル3に進出する。ファイナル6の4位～6位のチームの最終順位が確定する。
- 4) ファイナル3はファイナル6の2位チームとファイナル6の3位チーム

による1回戦で行い、勝者がファイナルに進出する。敗者は最終順位が3位に確定する。

- 5) ファイナルはファイナル6の1位チームとファイナル3勝者による1回戦で行い、勝者チームが優勝、敗者チームが準優勝となる。

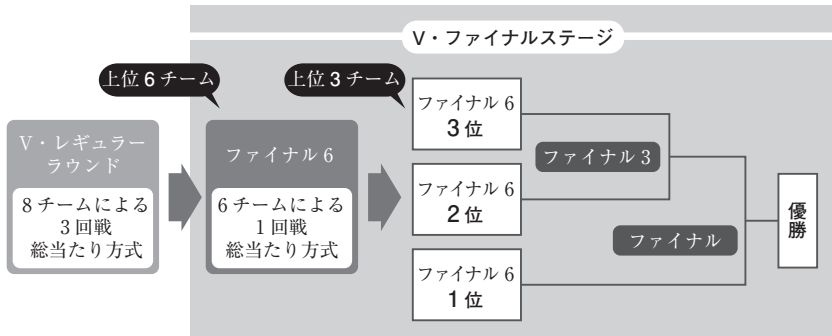


図3 V・プレミアリーグ大会方式

Vリーグ機構ホームページより引用

順位決定方式

V・レギュラーラウンド

- 1) ポイント制を導入し、試合結果により次のポイントを付与する。

「3-0」もしくは「3-1」での勝利	3点
「3-2」での勝利	2点
「2-3」での敗戦	1点
「0-3」もしくは「1-3」での敗戦	0点

- 2) V・レギュラーラウンドのリーグ戦の順位は、獲得したポイントの高いチームを上位とする。2つあるいはそれ以上のチームの獲得ポイントが並んだ場合は、勝率の高いチーム、勝率も同率の場合はセット率、セット率も同率の場合は得点率の高いチームを上位とする。尚、得点率も同率となった場合は、当該チーム間での計算を行い、ポイント、勝率、セ

ット率，得点率の順で上位チームを決める。

ファイナル 6

- 1) ファイナル 6 進出チームには V・レギュラーラウンドの成績（順位）により予め，次の持ち点（ポイント）を付与する。

「ファイナル 6 進出チームに付与する持ち点の内容」

1 位・5 点 / 2 位・4 点 / 3 位・3 点 / 4 位・2 点 / 5 位・1 点 / 6 位・持ち点なし

※上記の順位は V・レギュラーラウンド順位

- 2) ファイナル 6 のリーグ戦の順位は，その進出時に付与された持ち点（ポイント）に，ファイナル 6 で獲得したポイントを加算し，ポイントの高いチームを上位とする。ポイントが並んだ場合は，V・レギュラーラウンドの順位が上位チームを上位とする。

② V・チャレンジリーグ I・II 対戦方式

2015/16V・チャレンジリーグ I は男子・女子ともに 8 チームによる 3 回戦総当たり方式で各 84 試合（男女合計 168 試合）を開催する。V・チャレンジリーグ II 男子が 7 チームによる 3 回戦総当たり方式で合計 63 試合，女子は 5 チームによる 4 回戦総当たり方式で合計 40 試合を開催する。

（8）リーグ開催期間

男女共：2015 年 10～3 月

(9) 2015/16シーズン順位(表3)

表3 2015/16バレーボールV・プレミア、チャレンジリーグ順位表

V・プレミア男子

1	豊田合成トレフェルサ
2	パナソニックパンサーズ
3	東レアローズ
4	ジェイテクトSTINGS
5	JTサンダーズ
6	堺ブレイザーズ
7	サントリーサンパーズ
8	FC東京

V・プレミア女子

1	久光製薬スプリングス
2	日立リヴァーレ
3	東レアローズ
4	NECレッドロケッツ
5	トヨタ車体クインシーズ
6	岡山シーガルズ
7	デンソーエアリービーズ
8	上尾メディックス

V・チャレンジI男子

1	富士通カワサキレッドスピリッツ
2	大分三好ヴァイセアドラー
3	トヨタ自動車サンホークス
4	大同特殊鋼レッドスター
5	警視庁フォートファイターズ
6	埼玉アザレア
7	つくばユナイテッドSun GAIA
8	東京ヴェルディ

V・チャレンジI女子

1	JTマーヴェラス
2	PFUブルーキャッツ
3	JAぎふリオーナ
4	仙台ベルフィーユ
5	KUROBEアクアフェアリーズ
6	大野石油広島オイラーズ
7	フォレストリヴァース熊本
8	柏エンゼルクロス

V・チャレンジII男子

1	VC長野トライデンツ
2	きんでんトリニティーブリッツ
3	近畿クラブスフィーダ
4	兵庫デルフィーノ
5	千葉ゼルバ
6	奈良NBKドリーマーズ
7	東京トヨペットグリーンスパークル

V・チャレンジII女子

1	トヨタ自動車ヴァルキューレ
2	ブレス浜松
3	GSSサンビームズ
4	群馬銀行グリーンウイングス
5	ブレストージ・インターナショナルアランマーレ

(10) 選手契約(待遇)

- ① 選手はVリーグ機構規約第57条により、チームと次のいずれかの形で契約しなければならないとされている。

- 1) チームの母体企業の正規の社員または関連企業からの出向社員である選

手.

- 2) チームの母体企業または関連企業との期間限定契約社員である選手.
- 3) 個人事業主型の選手として選手契約を締結する選手.
- 4) 雇用関係はないが、選手契約を締結する選手.
- ② ①項の2)～4)については、チームおよび選手は書面による契約を締結するとともに、チームはVリーグ機構に契約を証明する文書（書式はVリーグ機構で指定する）を提出しなければならない.

(11) 外国籍選手

- ① Vリーグに登録する外国籍選手はVリーグ機構登録規定第11条により次の2種類に区分されている.
 - 1) A 登録外国籍選手

日本国籍を有せず、下記の条件のいずれかに該当しない選手

 - i) 日本で出生し引き続き日本で生活している外国籍選手
 - ii) B 登録外国籍選手
 - 2) B 登録外国籍選手

20歳以上で、帰化の意思があり別途定める条件をすべて満たし、3年以内に帰化が許可される見込みの外国籍選手
- ② A 登録外国籍選手、B 登録外国籍選手とも、各1名に限り構成員とすることができる.
- ③ 構成員とする外国籍選手は、チーム構成員としてJVA登録をしなければならない.
- ④ 日本で出生し引き続き日本で生活している外国籍選手は、外国籍選手の枠に含まず、日本国籍選手と同等の扱いとする.
- ⑤ 外国籍選手の登録に関する詳細は、別途定める「外国籍選手の登録に関する規定」による.

(12) 選手育成システム

日本のVリーグに参戦するチームはその大半が企業型チームであり、他クラブ型チーム、官公庁のチームなど様々な形態が混在している。クラブの中にはジュニアチームや成年カテゴリ以外のチームを保有しているチームもあるが、基本的に下部組織を保有することも義務づけられていない。よって、選手育成の大半は中学、高校、大学などの各学校部活動に依存し、そこからのスカウトや企業における社員雇用といった形でメンバー構成をしているのが現状である。つまり、ジュニア世代からの一貫性のある選手育成体制は整えられていない。

3-2 中国のトップリーグ形態と選手育成

中国バレーボールリーグ（中国排球联赛）は、中国バレーボール協会が運営する中華人民共和国のプロバレーボールリーグであり、2014/15シーズンは男女各12チームでトップリーグが編成されている。

(1) リーグ名称 「361°中国排球联赛 CHINA VOLLEYBALL LEAGUE」

(2) リーグ目的

中国バレーボール協会は、全国のバレーボール関係者、選手、バレーボールファン及び我が国のバレーボール事業を支援してくれている国内外様々な方々の団結、国民一人一人の健康促進、さらにはオリンピックでのメダル獲得計画に貢献することを徹底して実行するとともに、バレーボールの普及と技術向上を推進している。国民の健康増大やアマチュアのスポーツ活動を豊かにすることによって社会主義の経済的構築、高度なスポーツ文化を築き上げることを促進する。また、国際競技会やアジア地域での競技会に積極的に参加することで他国やそれぞれの地域のバレーボール関係者及び選手との良好な関係を築き、交流を深めることを目指す。

(3) 総所属チーム数

男子甲 A 組 12チーム

男子甲 B 組 4 チーム + 強化大学チーム等 (年度ごとに参加チーム数は変動)

女子甲 A 組 12チーム

女子甲 B 組 4 チーム + 強化大学チーム等 (年度ごとに参加チーム数は変動)

(4) リーグ所属チーム資格 (チーム構成)

チームリーダー 1 名, 監督 1 名, コーチ 2 名, ドクター 1 名, 選手 12 名とする。監督及びコーチを選手が兼任することはできない。選手が 12 人に満たない場合, もしくは毎試合の選手構成員が 10 名以下になる場合はチームに対し協会は罰則を提示する対象となる。

- ① 各チームの選手は必ず中国排球協会に登録されているプレイヤーでなければならない。登録完了後協会は登録証明書を発行し, 毎試合その確認を行った上で試合に出場することが許可される。
- ② 各チームに最大 20 名の選手を登録することができる。登録期間締切後の変更は認められない。登録リストには各クラブの実印及び医療機関の証印を押さなければならない。また, 登録リストにはすべての登録スタッフ及び選手の個人カラー写真を添付しなければならない。個人写真は背景色を統一することとする。選手の生年月日及び登録リスト表の各項目を必ず記入しなければならない。以上の事を的確に処理し期限内に提出のないチームについて協会は当該チームにペナルティを与える権利を有する。
- ③ チームの登録選手が最大の 20 名となり, さらに国内及び国外の選手について移籍申請をする場合は移籍申請すると同時に登録変更をかける登録済選手番号と氏名を提示すること。
- ④ 登録リストにはキャプテン及びリベロプレイヤーを必ず明記すること。キャプテンは氏名の左側に C, リベロプレイヤー (1 ~ 2 人) は氏名の左側に L と記入する。特にリベロプレイヤーについて記入がない場合は該当チ

ームにリベロプレイヤーはいないとみなす。リベロプレイヤーを起用しない場合は登録リストにその旨の説明文書を記入すること。

- ⑤ 登録し試合に出場した12名の選手には協会側からリーグ成績証書を発行する。
- ⑥ 登録締め切りの期限はリーグ開幕日の45日前とする。

(5) リーグ所属チーム (表4)

表4 2014/15中国バレーボールリーグ (中国排球联赛) 甲A組加盟チーム

	男子		女子	
	チーム名	所在地	チーム名	所在地
1	北京汽车男子排球俱乐部	北京	浙江嘉善农商银行女子排球俱乐部	浙江省
2	上海金色年华男子排球俱乐部	上海	渤海银行天津 (天津理工大学) 女子排球俱乐部	天津
3	山东男子排球俱乐部	山东省	八一克明面业女子排球俱乐部	北京
4	八一男子排球俱乐部	北京	广东恒大女子排球俱乐部	广东省
5	河南天冠男子排球俱乐部	河南省	上海东浩兰生女子排球俱乐部	上海
6	福建师范大学男子排球俱乐部	福建省	辽宁大连金普新区女子排球俱乐部	辽宁省
7	辽宁男子排球俱乐部	辽宁省	北京汽车女子排球俱乐部	北京
8	江苏正荣男子排球俱乐部	江苏省	山东莱商银行女子排球俱乐部	山东省
9	浙江能源男子排球俱乐部	浙江省	福建阳光城女子排球俱乐部	福建省
10	四川男子排球俱乐部	四川省	四川女子排球俱乐部	四川省
11	广东男子排球俱乐部	广东省	河南鑫苑女子排球俱乐部	河南省
12	河北男子排球俱乐部	河北省	江苏中天钢铁女子排球俱乐部	江苏省

男女ともに各12チーム編成

(6) リーグ編成 (図4)

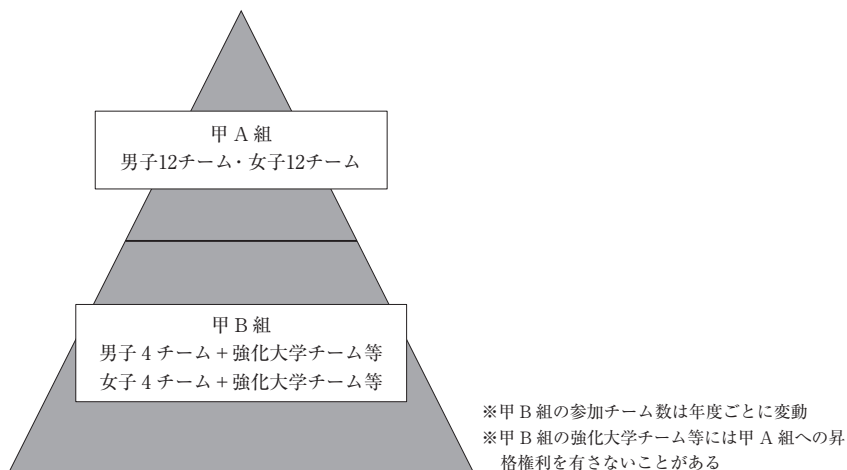


図4 中国バレーボールリーグ (中国排球联赛) 構成

(7) リーグ運営及び大会方式

① リーグ試合方式

1) 第一段階

加盟チーム男女各12チームを前年度の成績 (順位) をもとに 1, 3, 5, 7, 9, 11位を第一組, 2, 4, 6, 8, 10, 12位を第二組として2組に分ける。各組ホーム&アウェイ方式の2試合総当たりとしてホームゲーム5試合, アウェイゲーム5試合の計10試合を行い, その成績をもって第二段階へ突入する。

2) 第二段階

第一段階の各組1～4位の8チームが各別組1～4位のチームとホーム&アウェイの2試合総当たりとしてホームゲーム4試合, アウェイゲーム4試合の計8試合を行い, 第二段階の上位第1～4位と下位第5～8位の第二段階最終順位を決定する。また, 第一段階各組の5位と6位の計4チームはホ

ームゲーム 2 試合, アウェイゲーム 2 試合の計 4 試合を行い第 9 ～12位の第二段階最終順位を決定する。

3) 第三段階

第二段階の第 1 ～ 4 位のチームが順位順に 1 位対 4 位, 2 位対 3 位で準決勝を行う (準決勝は 3 試合 2 勝利制, 下位チームから先にホームゲームを 1 試合, 残り 2 試合は上位チームのホームでゲームを行う)。各敗者チームは 3, 4 位決定戦へまわり, 同じく 3 試合 2 勝利制で試合を行う (第二段階終了時の得点順位で下位は先にホームゲームを 1 試合, 残り 2 試合は上位のホームで行う)。準決勝各勝者チームは決勝戦へ駒を進める。決勝は 5 試合 3 勝利制で行う (第二段階終了時の得点順位で下位は先に 1 試合ホームゲームを行う。2 試合終了後, 共に 1 勝 (1 : 1) の場合, 再び第二段階終了時の得点順位で下位はもう 1 試合ホームゲームを行う。先に 2 勝する (2 : 0, 2 : 1) チームはそのチームのホームでもう 1 試合を行う。ともに 2 勝 (2 : 2) の場合, 第二段階終了時の得点順位で上位のホームでゲームを行う)

② 得点について (得点計算方法)

試合結果 (セットカウント) 3 : 0, 3 : 1 の場合, 勝者 3 点, 敗者 0 点, 試合結果 (セットカウント) 3 : 2 の場合, 勝者 2 点, 敗者 1 点のポイント制を導入し, 獲得得点の高い順で順位を決定する

1) 獲得得点と同じ場合の順位決定方法

i) 勝利数

ii) C 値 セット率 (総得セット ÷ 総失セット)

iii) Z 値 得点率 (総得点数 ÷ 総失点数)

3 チーム以上が Z 値まで同じ場合, 該当チームの中で②のルールをもとに決定する。

③入れ替え戦について,

入れ替え戦はチャレンジマッチ方式とする. 甲 B 組のチームがチャレンジマッチに出場するためにはその資格戦に参加しなければならない. 資格戦は 4 チームで総当たり戦を行い, その上位 2 チームがチャレンジマッチに出場できる権利を有する. 入れ替え戦は資格戦の上位 1, 2 位のチームとリーグ戦下位 11, 12 位のチーム 4 チームで行う. 原則, 資格戦 1 位対リーグ戦 12 位, 資格戦 2 位対リーグ戦 11 位となるが, 資格戦 1 位のチームは優先的にリーグ戦 11 位もしくは 12 位のいずれかのチームとの対戦を選択できる権利を与えられる. チャレンジマッチの試合ルールはリーグ戦と同様とし, チャレンジマッチ 1, 2 位のチームが来年度のリーグ戦に 11, 12 位として参加することができる. また, 甲 B 組に出場しているチームのうち甲 A 組への昇格権利のあるチームは事前に協会側から定められており大学単体のチームなどは甲 B 組で上位に入ってもチャレンジマッチへの出場権は発生しないこととなっている. よって, これらの権利保有の有無によっては最終順位も変動することがある.

表 5 361°中国女子排球联赛 (2014-2015) リーグ日程

361° 中国女子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第一阶段 (I 组)										
轮次	第一轮	第二轮	第三轮	第四轮	第五轮	第六轮	第七轮	第八轮	第九轮	第十轮
日期 队伍	2014/11/8 (六)	2014/11/11 (二)	2014/11/15 (六)	2014/11/18 (二)	2014/11/22 (六)	2014/11/25 (二)	2014/11/29 (六)	2014/12/2 (二)	2014/12/6 (六)	2014/12/9 (二)
浙江	浙江 - 江苏	浙江 - 广东			浙江 - 山东			浙江 - 上海		浙江 - 福建
广东	广东 - 福建		广东 - 江苏		广东 - 上海		广东 - 浙江			广东 - 山东
上海	上海 - 山东		上海 - 浙江	上海 - 江苏			上海 - 福建		上海 - 广东	
山东			山东 - 福建	山东 - 广东		山东 - 上海	山东 - 江苏		山东 - 浙江	
福建		福建 - 上海		福建 - 浙江		福建 - 广东		福建 - 山东	福建 - 江苏	
江苏		江苏 - 山东			江苏 - 福建	江苏 - 浙江		江苏 - 广东		江苏 - 上海

361° 中国女子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第一阶段 (II 组)

轮次	第一轮	第二轮	第三轮	第四轮	第五轮	第六轮	第七轮	第八轮	第九轮	第十轮
日期 队伍	2014/11/8 (六)	2014/11/11 (二)	2014/11/15 (六)	2014/11/18 (二)	2014/11/22 (六)	2014/11/25 (二)	2014/11/29 (六)	2014/12/2 (二)	2014/12/6 (六)	2014/12/9 (二)
天津	天津 - 河南	天津 - 八一			天津 - 北京			天津 - 辽宁		天津 - 四川
八一	八一 - 四川		八一 - 河南		八一 - 辽宁		八一 - 天津			八一 - 北京
辽宁	辽宁 - 北京		辽宁 - 天津				辽宁 - 四川		辽宁 - 八一	辽宁 - 河南
北京			北京 - 四川	北京 - 八一		北京 - 辽宁	北京 - 河南		北京 - 天津	
四川		四川 - 辽宁		四川 - 天津		四川 - 八一		四川 - 北京	四川 - 河南	
河南		河南 - 北京		河南 - 辽宁	河南 - 四川	河南 - 天津		河南 - 八一		

361° 中国女子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第二阶段

轮次	第十一轮	第十二轮	第十三轮	第十四轮	第十五轮	第十六轮	第十七轮	第十八轮
日期 队伍	2014/12/13 (六)	2014/12/16 (二)	2014/12/20 (六)	2014/12/23 (二)	2014/12/27 (六)	2014/12/30 (二)	2015/1/3 (六)	2015/1/6 (二)
I 1	I 1 - II 4	I 1 - II 3			I 1 - II 2	I 1 - II 1		
I 2	I 2 - II 3	I 2 - II 2			I 2 - II 1	I 2 - II 4		
I 3	I 3 - II 2	I 3 - II 1			I 3 - II 4	I 3 - II 3		
I 4	I 4 - II 1	I 4 - II 4			I 4 - II 3	I 4 - II 2		
II 1			II 1 - I 4	II 1 - I 3			II 1 - I 2	II 1 - I 1
II 2			II 2 - I 3	II 2 - I 2			II 2 - I 1	II 2 - I 4
II 3			II 3 - I 2	II 3 - I 1			II 3 - I 4	II 3 - I 3
II 4			II 4 - I 1	II 4 - I 4			II 4 - I 3	II 4 - I 2
I 5	I 5 - II 5	I 5 - II 6						
I 6	I 6 - II 6	I 6 - II 5						
II 5			II 5 - I 5	II 5 - I 6				
II 6			II 6 - I 6	II 6 - I 5				

361° 中国女子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程 第三阶段

2015/1/10 (六) 半决赛第一场 (4 - 1; 3 - 2)	2015/1/13 (二) 半决赛第二场 (1 - 4; 2 - 3)	2015/1/17 (六) 半决赛第三场 (1 - 4; 2 - 3)	2015/1/20 (二) 3、4 名决赛第一场	2015/1/25 (日) 3、4 名决赛第二场	2015/1/29 (四) 3、4 名决赛第三场
2015/1/24 (六) 冠军赛第一场	2015/1/27 (二) 冠军赛第二场	2015/1/31 (六) 冠军赛第三场	2015/2/3 (二) 冠军赛第四场	2015/2/7 (六) 冠军赛第五场	

表 6 361° 中国男子排球联赛 (2014-2015) リーグ日程

361° 中国男子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第一阶段 (I 组)

轮次	第一轮	第二轮	第三轮	第四轮	第五轮	第六轮	第七轮	第八轮	第九轮	第十轮
日期 队伍	2014/11/16 (日)	2014/11/20 (四)	2014/11/23 (日)	2014/11/27 (四)	2014/11/30 (日)	2014/12/4 (四)	2014/12/7 (日)	2014/12/11 (四)	2014/12/14 (日)	2014/12/18 (四)
北京	北京 - 河北	北京 - 八一						北京 - 河南	北京 - 江苏	北京 - 浙江
八一			八一 - 河北		八一 - 河南	八一 - 浙江	八一 - 北京			八一 - 江苏
河南	河南 - 江苏		河南 - 北京	河南 - 河北			河南 - 浙江		河南 - 八一	
江苏		江苏 - 河北	江苏 - 浙江	江苏 - 八一	江苏 - 北京	江苏 - 河南				
浙江	浙江 - 八一	浙江 - 河南		浙江 - 北京				浙江 - 江苏	浙江 - 河北	
河北					河北 - 浙江	河北 - 北京	河北 - 江苏	河北 - 八一		河北 - 河南

361° 中国男子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第一阶段 (II 组)

轮次	第一轮	第二轮	第三轮	第四轮	第五轮	第六轮	第七轮	第八轮	第九轮	第十轮
日期 队伍	2014/11/16 (日)	2014/11/20 (四)	2014/11/23 (日)	2014/11/27 (四)	2014/11/30 (日)	2014/12/4 (四)	2014/12/7 (日)	2014/12/11 (四)	2014/12/14 (日)	2014/12/18 (四)
上海	上海 - 广东	上海 - 山东			上海 - 辽宁			上海 - 福建		上海 - 四川
山东	山东 - 四川		山东 - 广东		山东 - 福建		山东 - 上海			山东 - 辽宁
福建	福建 - 辽宁		福建 - 上海	福建 - 广东			福建 - 四川		福建 - 山东	
辽宁			辽宁 - 四川	辽宁 - 山东		辽宁 - 福建	辽宁 - 广东		辽宁 - 上海	
四川		四川 - 福建		四川 - 上海		四川 - 山东		四川 - 辽宁	四川 - 广东	
广东		广东 - 辽宁			广东 - 四川	广东 - 上海		广东 - 山东		广东 - 福建

361° 中国男子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第二阶段								
轮次	第十一轮	第十二轮	第十三轮	第十四轮	第十五轮	第十六轮	第十七轮	第十八轮
日期 队伍	2014/12/21 (日)	2014/12/25 (四)	2014/12/28 (日)	2015/1/1 (四)	2015/1/4 (日)	2015/1/8 (四)	2015/1/11 (日)	2015/1/15 (四)
I 1	I 1 - II 4	I 1 - II 3			I 1 - II 2	I 1 - II 1		
I 2	I 2 - II 3	I 2 - II 2			I 2 - II 1	I 2 - II 4		
I 3	I 3 - II 2	I 3 - II 1			I 3 - II 4	I 3 - II 3		
I 4	I 4 - II 1	I 4 - II 4			I 4 - II 3	I 4 - II 2		
II 1			II 1 - I 4	II 1 - I 3			II 1 - I 2	II 1 - I 1
II 2			II 2 - I 3	II 2 - I 2			II 2 - I 1	II 2 - I 4
II 3			II 3 - I 2	II 3 - I 1			II 3 - I 4	II 3 - I 3
II 4			II 4 - I 1	II 4 - I 4			II 4 - I 3	II 4 - I 2
I 5	I 5 - II 5	I 5 - II 6						
I 6	I 6 - II 6	I 6 - II 5						
II 5			II 5 - I 5	II 5 - I 6				
II 6			II 6 - I 6	II 6 - I 5				

361° 中国男子排球联赛 (2014-2015) 竞赛日程第三阶段					
2015/1/18 (日) 半决赛第一场 (4 - 1, 3 - 2)	2015/1/22 (四) 半决赛第二场 (1 - 4, 2 - 3)	2015/1/25 (日) 半决赛第三场 (1 - 4, 2 - 3)	2015/1/29 (四) 3, 4 名决赛第一场	2015/2/3 (二) 3, 4 名决赛第二场	2015/2/7 (六) 3, 4 名决赛第三场
2015/2/1 (日) 冠亚军决赛第一场	2015/2/5 (四) 冠亚军决赛第二场	2015/2/8 (日) 冠亚军决赛第三场	2015/2/10 (二) 冠亚军决赛第四场	2015/2/14 (六) 冠亚军决赛第五场	

※表 5, 6 361° 中国排球联赛 CHINA VOLLEYBALL LEAGUE (2014-2015) より引用

(8) リーグ開催期間

女子：2014年11月8日～2015年2月7日

男子：2014年11月16日～2015年2月14日

(9) 2014/15シーズン順位（表7）

表7 2014/15中国バレーボールリーグ（中国排球联赛）順位表

女子順位

1	浙江嘉善农商银行女子排球俱乐部	浙江嘉善农商银行
2	渤海银行天津（天津理工大学）女子排球俱乐部	渤海银行（天津理工大学）
3	八一克明面业女子排球俱乐部	克明面业股份有限公司
4	广东恒大女子排球俱乐部	恒大地产集团
5	上海国华人寿女子排球俱乐部	国华人寿保险股份有限公司
6	辽宁大连金州新区女子排球俱乐部	辽宁大连金州新区
7	北京汽车女子排球俱乐部	北京汽车集团有限公司
8	山东莱商银行女子排球俱乐部	山东莱商银行
9	福建正荣女子排球俱乐部	福建正荣集团有限公司
10	四川（四川大学）女子排球俱乐部	四川大学
11	河南鑫苑女子排球俱乐部	河南鑫苑置业有限公司
12	江苏灌云女子排球俱乐部	灌云

男子順位

1	北京汽车男子排球俱乐部	北京汽车集团有限公司
2	上海唐朝男子排球俱乐部	上海唐朝酒店经营管理有限公司
3	山东男子排球俱乐部	
4	八一佳兆业男子排球俱乐部	佳兆业集团控股有限公司
5	河南天冠男子排球俱乐部	河南天冠企业集团有限公司
6	福建师范大学男子排球俱乐部	福建师范大学
7	辽宁男子排球俱乐部	
8	江苏中盛光电男子排球俱乐部	中盛光电集团
9	浙江男子排球俱乐部	
10	四川男子排球俱乐部	
11	广东男子排球俱乐部	
12	河北男子排球俱乐部	

※表右は民間のチームスポンサー企業を示す

(10) 選手契約（待遇）

選手は全て各クラブと契約の結ばれたプロ選手である。成年，少年チームなどの下部組織に属する選手であってもクラブと有効な契約が結ばれた選手であることとする。

① リーグ国内選手の移籍について

1) リーグ期間中の移籍人数及び試合に出場する選手人数には制限を設けない。ただし、各選手は1チームだけでのみチーム代表として試合に出場できる。さらに年度一度だけ移籍は認められるものとする。

2) 各チーム登録リストにある最大20名の選手から8名の選手のみ公開移籍できるものとする。もし、移籍選手が出た場合は移籍した人数分を選手補強として補充することができる。

3) 各選手は国内登録リストにおいて公開移籍選手としてリストアップし、それを公開後各チームは移籍交渉を行なうことができる。移籍リスト選手について各チームは昨年度の下位～上位チームの順で選択することができる。各チームからの移籍指名は一回につき2名を超えてはならない。一回選択後、需要に応じて再び選択することができる。両チーム間での移籍交渉を行い移籍協定締結後、協会へ許可申請を提出するものとする。

② 国内選手（中国籍選手）の国外チームからの移籍について

国内選手が国外のチームに移籍している及び国外のリーグに参加している場合、もし国外での契約期間中にそれが中止された場合、所定の手続きを行えば国内の本籍チームに帰還し試合に出場することができる。また、国内本籍以外のチームに移籍し試合に出場することもできるものとする。

(11) 外国籍選手

リーグ国外選手について

1) リーグ戦に登録したチームは国外の選手を加入させることができる。登録人数に制限はしないが、国外選手は各チーム最大2名まで同時に試合に出場することができる。

2) 国外選手は年一度だけ移籍することができる。ただし、国内の1チームだけでのみチーム代表として試合に出場できるものとする。

(12) 選手育成システム

中国の各プロチームは国のスポーツ強化政策として中学、高校を併設した学校施設を供えもち、必ず下部組織に青年隊（日本の高校生世代にあたる）さらには少年隊（日本の中学生世代にあたる）を保有している（図5：中国遼寧省運動技術学院の事例）。中国各省内全域や省と同格の一般行政区画にあたる直轄市である北京市や上海市といった広域地域内からスカウトされた選手らが衣食住に加えて教育の提供を受け、少年時代からトップチームを目指し英才的にスポーツ指導を受け一貫性を持って選手育成にあたっている。

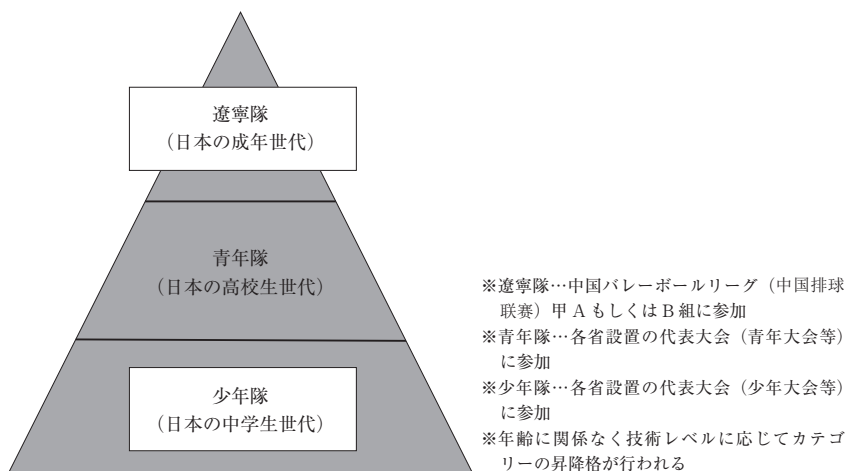


図5 中国遼寧省運動技術学院における選手育成システム（事例）

4. 考察

両者のリーグ名称からはリーグの捉え方の大きな違いがみてとれた。日本の「Vリーグ/V.LEAGUE」に対し、中国は「361°中国排球联赛 CHINA VOLLEYBALL LEAGUE」と年度ごとにスポンサー企業名をリーグ自体に冠している。「361°」は中華人民共和国福建省晋江市を拠点とするスポーツ用品メーカー「三六一度國際有限公司」であり、中国はもとより近年では

2010年広州アジア大会での公式スポンサー、2014年の仁川アジア大会でもプレスステージパートナーとなり、運営スタッフやボランティアら2万人以上のユニフォームを供給するなどして注目度も急速的に増している。さらには2016年リオデジャネイロオリンピック及びパラリンピックの公式ユニフォームのサプライヤーとなるなどその知名度も世界的に広がりをみせている成長スポーツメーカー企業である。中国バレーボールにおいては、冠スポンサーとなることでその知名度を高めるとともに、全チームにウェア等の提供をしている。これにより参加チームはリーグ全体としてのサポートを受けることによりウェア等の経費はすべて削減される。バレーボールにおけるスポーツメーカー1社での独占的なマーケットの獲得ができるのは日本にはない中国特有のものである。リーグ所属チーム数とリーグ方式であるが、トップリーグに所属するチームは日本が8チームなのに対して中国は12チームと中国の方が多い。前年度の結果によりグループ戦の分かれ方が毎年異なることや、総試合数や各チームとの試合数は中国の方が少なく（日本:3レグ、中国2レグ）毎年異なるスリリングな試合が展開されることが期待できている側の飽きを防ぐことができると考えられる。中国リーグは2レグ制でプレーオフに入るまでが早く、1試合の結果で順位に変動が起きるため無駄な消化試合がない設定となっている。また、予選ラウンドの順位が上位であればあるほどプレーオフ時に相手チームより多くのホームゲームを開催できることや、翌年の予選ラウンドの組み合わせに大きく影響することから上位進出が早々に決まっても安易な消化試合は発生しないようなシステムになっている。しかし、日本の場合はリーグを行う体育館を確保するために約1年前から日程を組み体育館の予約をする現状がある中で、いつどこで試合をするのか決まっていない状態でリーグを開催することは極めて難しいと考えられる。つまり、各チームが優先的に使用でき、なおかつリーグが開催できるだけの規定以上の体育館を大半のチームが保有していないことがリーグにおける試合設定に制限をもかけてしまっていると指摘できる。また、中国リーグの下部リーグ大会に大学生カテゴリーのチームが参加できることは大学生チームがプロ

チームと実際の公式大会で対戦できる機会の提供やモチベーションはもちろん、成年チームがプロチームとして敗戦するようなことはあってはならないという危機感を持ったスリリングな試合展開を実現し互いにチームモチベーション、勝利意欲など良い刺激となると考えられる。さらに中国リーグは大前提としてプロリーグであることから大学生チームが上位進出したとしても繰り上げ制度により入替戦には参加できないようになっていることから大学生チームの行き過ぎを防ぐことができている。選手契約についてみると中国リーグの成年チームはもちろん、少年チームの選手もプロ選手であり衣食住に加えて教育の提供を国から受けている。成年チームと同じ環境に少年チームの学校や練習場もあることは競争倫理も強く働くため日々のモチベーションや目指すべきものが明確でありプロ意識が大きく芽生える環境にある。また、当然少年チームから成年チームまで一貫性をもった指導体制を引き、選手らも将来性をもたれて育成されていることを実感している。逆に日本は企業型チームとクラブ型チーム、さらにはある少数の個人選手が企業とプロ契約を交わすなどその形態が様々な者たちが混在しているリーグであるのが現状である。選手らも企業の社員であり通常業務をこなしながらの競技活動であったり、短期間の選手契約であると常にセカンドキャリアを意識しての活動になるなど競技に専念できる環境としては望ましいものとはいえない。少年世代においては学校部活動が主流のため、一貫性をもった指導は受けられず、部活動自体も教育課程外とはいえ学校教育範囲内で行われるためアスリートを育成することよりも教育の一環としての人格形成や集団行動規範の獲得におもむきが大きいといえる。2016年9月、まずはトップリーグからこの状況を打開しようと一般社団法人バレーボールリーグ機構から将来に向けた「スーパーリーグ」構想が打ち出された。その内容は、リーグ所属チームをすべてプロ化して足並みを統一し、バレーボール界を牽引しようというものであるが、その参入条件をみると各クラブに対してあまりにも現実離れたものであり多くのチームの賛同を得てリーグ改革するのも非常に困難を極めるであろうものである。既存の様々な形態の各チームが諸々の条件をクリア

して新リーグに参入するには多くの課題を克服していかなければならないことが指摘できる。この構想は世界の様々なトップスポーツリーグと比較しても理想的な構想であるといえる。しかし、日本のバレーボールトップ各チームが一同にそこに参入するには相当な面で現実性を追求しなければならないと指摘できる。これらの点を両者比較しても中国の方が選手への競技専念環境の構築、将来を見据えた少年世代への育成環境ともに国家がバックアップしていることによりスポーツ及びアスリートに対しての文化的な位置づけが日本とは大きく異なることがみてとれる。また、リーグの競技レベルの向上とよりハイレベルな国内リーグを展開することによってそこから輩出される国家代表選手の育成に与える影響だが、中国リーグは外国人選手を同時に2名コートに入れることができるため、常に世界レベルに近い試合を展開することが可能となり日頃から外国人選手の高さやパワーに慣れることができるであろうことがメリットとして見受けられる。これにより国家代表に選出された選手らが国際大会に出場した際、外国人選手への対応までに時間がかからないことが期待できる。しかし、このシステムの導入で中国人選手の出場機会が失われるデメリットも当然あるが、中国人選手のレギュラー争いもより熾烈になることから国内選手全体の競技レベルの底上げにつながっているものとみられる。さらには外国人選手2名を起用したハイレベルな試合展開は「みるスポーツ」としてのコンテンツとしても魅力的であり中国国内での一定のバレーボール人気に一躍かっているシステムといえる。日本は現行ルールでは1チームに外国人選手は1名という制限を設けており、その制限の意図については詳細を得るまでには本調査では至らなかったが、リーグ展開をみると大半が外国人選手に極端にボールを集めた外国人選手間での打ち合い、競争性が異常に高くその出来次第で勝敗が分かれているといえる面も否めない。実際過去からのリーグ成績をみても総得点での上位5選手はほとんど外国人選手が占める結果であることが例年続いている。チームが勝利するためにはより相手より得点力の高い外国人選手を獲得することといった単純競争を生んでしまっている。また、中国リーグは各チームの選手数を20名ま

でしか登録できないと制限している。これは選手登録数には制限を設けない日本と比べると中国リーグに参加する選手らは毎年個々人が危機感をもち、生き残りをかけて日々の練習や試合でのパフォーマンスに執着していることにつながっていると考えられる。日本は各チーム事情にもよるが、特に選手らが労働力として企業に貢献するようなチームは選手数を制限するというよりも労働力の確保という点で雇用が先にくるため、実際にプレーする選手数も増えるが彼らは生計を立てる手段が必ずしもバレーボールではなく自ら勤務に努める労働の対価として給料をもらいそのほかで優遇された時間に競技活動を行っている。そこに本当のなんらかの手段として身を投じるような有効な選手間競争が生じているとはいいがたい。下部カテゴリーの存在をみても中国では明確に将来の国家代表を輩出するシステムが構築されているが、日本では例としてサッカー J リーグが下部組織の保有を各クラブに義務付けている。その効果は国際競技力に確実に反映されており、ユース年代の国際大会では上位進出、シニア代表（フル代表）でも 4 大会連続のワールドカップ出場を果たしている。しかし、バレーボール V リーグでは下部組織についてクラブ要件にも明記されてはいない。これは V リーグに参戦しているチームの多くが企業チームであることに起因している。企業チームはあくまでも社内福利厚生をその主たる目的としており、活動の主体は従業員である。中学生や高校生の育成年代を保有する経済的合理性はなく、これについて V リーグ機構から働きかけることも難しいだろう。バレーボール競技の育成システムにおいては幼少期から青年期までの一貫育成システムは皆無であり小学校、中学校、高校、大学、社会人と分断された育成環境が日本の競技力を阻害している要因とも考えられる。リーグ運営組織のマネジメント課題を抽出してみると中国はやはり国家主導の下にスポーツを展開していることが組織や財政の安定を図っている。これにあわせてリーグには冠スポンサーをつけたり、プロスポーツ興業におけるチケット収入さらには各チームが地元民間企業をスポンサーにつけて年度ごとにチーム名称もスポンサー企業名に姿を変えるなど日本の実業団型組織の集結とはリーグ組織自体も大きく

異なる。日本のリーグ運営組織は脆弱、公益財団法人日本バレーボール協会は5期連続の赤字、Vリーグは現行の組織に移行してから20年になるがこの間、他の競技では革新的なリーグ改革が行われている。日本プロ野球機構は東北楽天ゴールデンイーグルスや横浜 DeNA ベイスターズなどの新球団の承認、独立リーグの活性化、交流戦の誕生、バスケットボールにおいては日本リーグとBJリーグの統一化に成功し、さらにはプロバスケットリーグ「Bリーグ」発足まで様々な施策が試行錯誤しながら実施されてきた。しかし、バレーボールでは斬新的なリーグマネジメントが行われてきたか、バレーボールファンを新規開拓するような魅力的なプログラムが登場してきたかというそれは見当たらない。バレーボールの競技人口は今日ですら低迷しているといわれながらもそれでも少なくない部類である。潜在的ファンはいるはずだがそれらを掘り起こすマネジメント人材がVリーグ機構に存在するか、いなければ新規導入して改革を進めることが急務である。

5. まとめ

本研究では、隣国中国におけるトップリーグと日本のそれを比較検証することで国内リーグの在り方とそれが国家代表に加わる選手育成へ与える影響について検証することを目的とした。大きく異なるのはやはり中国のプロリーグと日本の実質アマチュアリーグの展開とその背景に付随する様々な要因である。中国はそもそもスポーツを国力として世界に示す国家戦略の一つと明確に位置づけ国家レベルでアスリートの育成、世界に通ずる競技レベルの向上を目指している。日本は長きにわたり企業スポーツがバレーボール界を牽引し、そこから多くの代表選手を輩出、国際大会でのメダル獲得も成し遂げバレーボール競技が日本のお家芸ともいわれる一時代を築いてきた。しかし、その企業スポーツも昨今の経済状況の悪化や企業におけるスポーツチーム保有価値の希薄化、時代とともに企業のスポーツに対する「保有から支援へ」の携わり方の変容が見え始めチームの消滅が相次ぎ現在でも歯止めが

からない。形態を新たにクラブ化して参入するチームが増えていく中、多くのクラブが財政難やその運営に苦しみなど日本ではまだまだ地域にスポーツが根付く文化が確立されていない。筆者ら（2011）の調査においてもクラブ型チームのその大半がその競技に特化したごく一人の熱意あるマンパワーにおいて運営を切り盛りしており、組織的または永続的にクラブが安定して育っていくとは言い難い面も指摘した。これらのように我が国のスポーツチームは企業やある特定の個人裁量によっていくらかでも衰退してしまう一面を常に警戒せざるを得ない。つまり、各クラブが存在する目的、チーム保有の意義、到達目標などがさまざまで、国内リーグをより活性化しそれを国際競技力向上に継承していくという縮図がまったく統一されていない。スポーツで国家代表を輩出、派遣していく以上もっと国が主導となって各スポーツ団体に関与し、強化を図っていくべきであるといえる。

中国は80以上の競技・種目をそれらの成績ごとにポイント化しスポーツ強化国を国別に順位づけした「世界スポーツ大国ランキング」においても世界4位とスポーツ超大国に位置づけられている。日本はトップ10にもランクインしていない。中国が世界的にもスポーツ大国として国家アピールを実現できているのは、本研究におけるバレーボール競技でもみてとれた国内リーグの明確な位置づけとアスリート育成システムが日本に比べてもはるかに構築されており、それがスポーツ文化として定着していることが大きな要因として考えられる。我が国も2020年には東京オリンピック・パラリンピックを迎える。2008年北京オリンピックでは中国バレーボール代表チームは男子が5位入賞、女子が銅メダルと開催国として一定の成果を発揮した。日本女子は入賞圏内におり2012年ロンドンオリンピックでは銅メダル獲得を実現し、翌大会のリオ五輪でもベスト8入賞と世界と戦える期待がある。しかし、男子においては主要国際大会では不振も続いており、オリンピック予選すら通過できない状況で2020年の自国開催を迎えるにあたり一層の強化策が必要となっている。本研究での比較検討の中で日本が中国リーグを模範とすべき点は多々存在すると指摘でき、選手らが大きく力をつけるべく国内リーグの在り

方を重要検討事項とすることは必然的に代表チームの強化に直結するものであると考えられる。

参考・引用文献

- 増山光洋, 村本伸幸, 柿島新太郎他: バレーボールにおけるクラブ型チームの現状—V・チャレンジリーグを対象にして—, 中央学院大学人間・自然論叢第32号, 31-49, (2011)
- 「V. LEAGUE HAND BOOK 2015/16」一般社団法人日本バレーボールリーグ機構
- 「2015/16 V. LEAGUE OFFICIAL PROGRAM」一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

資料

- 361° 中国排球联赛 CHINA VOLLEYBALL LEAGUE (2014-2015)
- 公益財団法人日本バレーボール協会 <http://www.jva.or.jp/>
- 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 <http://www.vleague.or.jp/>
- 中国バレーボール協会 <http://www.volleychina.org/index.html>